

安来高校植物図鑑（2021年12月 番外編）

10月を過ぎると野草のほとんどは花を咲かせません。寒い時期は昆虫があまり活動しないので、受粉が出来ないからでしょう。一方で、コケ植物は1年中あちこちで見ることができます。今年度はコケ植物も写真を撮り続けてみました。私自身、初めてコケ植物を調べたのですが、意外に美しくて感動…。ですので、勝手ながら紹介させていただきます。

コケ植物は主に、地面を這うように広がっていく苔類(たいるい)と、木のように立ち上がる蘚類(せんるい)の2つの仲間に分けることができます。もう1つツノゴケ類というのもあるのですが、これは理系の生物選択者が知っていれば御の字かな、といったところ。今回紹介するゼニゴケは苔類、スギゴケとハイゴケは蘚類になります。

和名: ゼニゴケ (錢苔)

コケといえばスギゴケかゼニゴケか…というくらい有名なコケです。中学校の教科書で紹介されるので、一度は聞いたことがあるのではないかでしょうか。人家の近くの日陰に生えていることが多いです。コケ植物ですので葉と茎の明確な区別がありません。雄株は精子を作り、雌株は卵を作ります。雨が降ると精子が泳いで雌株に辿り着き、受精が成立します。その後、雌株の裏側で胞子を作り、胞子をばらまいて増殖していきます。ところが、安来高校でもそうなのですが、雌株のほうが圧倒的に多く雄株は周囲を探さないと見つかりません。有性生殖はよほど環境条件が良くなければ行わないそうです。左下写真の葉のようなものは葉状体(ようじょうたい)といいます。葉状体の表面にある吸盤のようなものは杯状体(はいじょうたい)といい、この中にコケの無性芽がたくさん入っています。上から水がかかると無性芽を周辺に撒き散らし、ゼニゴケはみるみる増えていくそうです。これは無性生殖であり、ゼニゴケはほとんどがクローンなのだなと思いました。そういうえば、ゼニゴケをインターネットで検索すると、駆除方法ばかり出てきます。困っておられる方がたくさんいらっしゃるんですね。この杯状体が銭(硬貨)のように見えるのでゼニゴケという名前になったという説もあります。



雄株



雌株



和名: スナゴケ (砂苔)

上からのぞいた時の美しさに圧倒されたコケです。葉が開いたときに星のように見える代表的なコケになります。淡い緑色が透き通っていてとても明るく、初めて見るとコケだとは気付かないかもしれません。コケと言えば湿ったイメージがあるかもしれません、このスナゴケは砂地で日当たりが良い場所を好むコケだそうです。でも水分が不足するとしぶんでしまい、本来の姿とは全く別物になってしまいます。そういう時は霧吹きで水をかけて再生するのを楽しむとよいそうです。



和名: ハイゴケ (這苔)

これも何かの葉かな?と思ってしまいそうな見た目ですが、コケの仲間です。こちらも日当たりの良い場所を好むコケですが、水分がないと縮れてくるんと巻いてしまい、色が茶色になってしまうので、同じ種だとは思わないかも。小さい葉が編み込まれたように互い違いに重なり、さらに葉の先端はくるんと曲がっていて、可愛らしいと思いました。触ると全体的にフワフワしています。近年、コケを飾るコケリウムというものが流行っているそうですが、ハイゴケはコケリウムでよく育てられるそうです。



11月19日、日本全国で「ほぼ皆既月食」が見られました。ほぼ、というのは完全な皆既月食ではなかったためです。次回は65年後ということで、教室での朝礼で生徒に告知したところ、かなり多くの生徒が放課後に渡り廊下などに出て観察してくれたそうで、嬉しく思いました。ただ、普通の皆既月食は2022年11月8日にも見られるそうです。

私も「ほぼ皆既月食」を写真に収めたく、外に出ていたところ、多くの先生方が外に出てきてくださり一緒に観察することができました。月食は薄暗く、手ブレでピント合わせに苦労していたところ、校長先生が三脚を貸してくださいました。お陰で右のような写真が撮れました。ありがとうございました。



作成：三代智子